

令和5年3月

保護者の皆様

高槻市立芝谷中学校
校長 北 堂 薫

令和4年度 芝谷中学校の取組について

保護者の皆様には、平素より本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

今年度の学校教育全体を振り返り、重点目標や主な取組と今後の対応をまとめましたのでお知らせいたします（写真：芝中ブログより）。

1. 第九中・芝谷中校区のめざす子ども像

自ら学び 仲間とつながり 未来を拓く子ども ～自立・共生・創造～

2. 芝谷中学校の教育目標、めざす学校像、目指す子ども像

教育目標

人権を尊重し、自ら考え行動できる心豊かな生徒の育成

めざす学校像

- ◇ 笑顔に会える学校
- ◇ 時代の変化に対応した学校
- ◇ 家庭、地域から信頼される学校

めざす子ども像

- ◇ 命を大切にし、人権を尊重する生徒
- ◇ 自ら学び、自ら考え、表現できる生徒
- ◇ 主体的に判断し、責任をもって行動できる生徒
- ◇ 自分を大切にし、他人を思いやり、ともに生きる生徒

3. 重点目標や主な取組と今後の対応

（1）安全で安心な学習環境づくり

□ 人権が大切にされる学習環境づくりや集団づくりをめざす

○ 安全で安心して生活できる環境づくり

- ・ 仲間を大切にできる集団の育成については、日常の各教科等の授業の中で、また、学級活動や学校・学年行事などの特別活動を通して、教職員が常に意識を持って取り組んでまいりました。
- ◆ 校区の小学校と連携し、今後も学校生活全体の安心ルール作りや、仲間とのつながりを常に見守り、安心できる学習環境づくりに取り組んでまいります。



- 災害やいじめ等の身近な危機に対しての未然防止と、適切な対応力の向上を図る
 - 避難訓練、健康管理、防犯学習、いじめについての学習や指導
 - ・ 地震や火災を想定し、生徒にも教職員にも事前予告をせず避難訓練を実施することにより、生徒と教職員の危機管理意識を高め、より実際に近い訓練を行うことができました。
 - ・ アレルギー対応や、施設安全管理等の学校事故防止、感染症拡大防止や熱中症対策など、「保健だより」等も活用し、健康管理に向けての取組を進めました。
 - ・ 規範意識の醸成や犯罪被害から自身を守る力を育成するため、高槻警察からスクールサポーターをお招きし、全学年を対象にオンラインで防犯教室を行いました。
 - ・ いじめ防止の取組については、「いつでも、どこでも、誰にでも起こりうる」ことを想定し、意識調査アンケートや教育相談、道徳の時間等を活用し、未然防止や早期発見に努め、組織的に対応を進めてまいりました。
 - ◆ 生徒が身近な危機を回避し、安全確保のための対応力を向上させることができるよう、より効果的な取組を研究し、進めてまいります。



(2)「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」をバランスよく育成

- 本校授業改善プランに基づき、「主体的・対話的で深い学び」の更なる実現をめざす
 - 「受け止め、つながり、表現できる授業」をテーマに、芝谷中学校区の「めざす子ども像」である「自ら学び 仲間とつながり 未来を拓く子ども」の育成に向けた取組
 - ・ 各教科の評価方法を示した「明日へのとびら」を、全家庭に配付しました。
 - ・ 校区の「めざす子ども像」に向かって、「自立・共生・創造」の3つの力をバランスよく身につけていくことを目指し、これを図で表した「学力の木」を、教室や廊下に掲示しています。
 - ・ 教員が相互に授業参観する「授業観察ウィークス」の取組を通して、新たな発見を自身の教科で生かす姿が見られました。教科の枠を超えて授業研究を行い、多彩な授業が展開できるよう努めました。
 - ・ 「GIGA スクール構想」のもと、生徒一人ひとりに配付されたタブレット端末の活用の促進を目的に、校内で研修を行い、授業内での活用方法などについて共有しました。昨年度より多くの場面で、タブレット端末の効果的な活用が進み、生徒同士が協働し、学びを深め合う姿が見られました。また、タブレットを活用する中で、生徒自らが学びたい方法を選択し、学びを深めていく「個別最適な学び」の手立ても見られました。
 - ◆ 今後も学習指導要領に示される「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、「知識・技能の習得」、「思考力・判断力・表現力等の育成」、「学びに向かう力・人間性等の涵養」の3つの資質がバランスよく育まれる授業をめざしてまいります。



- 成長を促す指導の推進、「道徳の時間」の研究、生徒会活動の活性化に取り組む
 - 総合的な学習の時間、道徳の工夫改善および生徒が主体となった集団づくり

- ・ 感染防止対策を行ったうえで、芝谷フェスタや体育祭を行いました。芝谷フェスタでは、教科横断的な知識・技能を活用し、3年生は「劇」、2年生は「合唱」、1年生は「国際理解学習の舞台発表」に取り組み、準備から発表まで3学年ともに充実した時間を過ごしました。体育祭では恒例の団に分かれ、学年を超えた集団づくりに取り組む事ができました。
- ・ 2年生の総合の取り組みでは長期間に渡って企業とコラボレーションし、生徒と教職員が一丸となって、「主体的・対話的で深い学び」の実践の追求し、探究的な学習に取り組む事ができました。
- ・ 道徳教育においては、各学年の教員全員が週ごとに異なるクラスで授業を展開しました。ワークシートやICTを活用しながら、生徒一人ひとりの考えや思いを積極的に交流する中で、さまざまなものの見方や考え方を知る機会を大切にしながら学びを深めてきました。自分一人では考えにくいことがらについても、グループやクラス全体での意見交流や議論を通して、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標に取り組み、問題を解決する資質や能力を育むことをめざしました。
- ・ 各教科等の授業では、掲示することを前提とした課題が出されました。そのうえで、生徒の自己肯定感・自己有用感の高まりを期待し、その成果物を廊下等、多くの生徒の目に留まる場所に意図して掲示しました。掲示物を通して、生徒同士で成果物の価値を共有する機会を設定しました。
- ・ 生徒会では、「生徒会活動＝生徒の自治活動」となるように、各委員会活動や様々な行事の企画と運営を行いました。生徒の声を聴き、より生徒主体の活動となるように活動を進めました。また、「シバハピ（Shibatani Happy Hour Project）」などの新たな企画を生み出すなど、活動に制限がある中であっても、少しでも自分たちの力で学校生活を楽しいものにするために工夫し、取組を進めました。
- ◆ 今後も生徒と教職員の対話的学びを中心とし、生徒が主体となって活動し、課題を解決する力を育んでいけるよう取り組みを進めます。



□ 授業での体力づくり、食育の推進、基本的な生活習慣の確立を推進する

○ 自己の課題に応じた体力づくり、給食の時間を活用した食育、状況に適した生活習慣の確立

- ・ 保健分野の授業では、1年生の授業において「健康な生活と疾病の予防」で生活習慣を様々な視点から見直すきっかけをつくりました。夏休みの宿題等で、運動や食生活を見つめる機会を設けました。体育分野の授業では、生涯スポーツへとつながる各スポーツへの関わり方に着目し、「する、みる、支える、知るなど」の様々な関わり方を意識した授業づくりを行いました。
- ・ 食育の推進では、「栄養通信」を毎月配布し、時節に合った情報を提供しました。家庭科では、2年生の授業で食に関する内容を扱いました。自分が毎日口にするものが身体を作っていることに気付き、栄養のある献立を立てる大変さや大切さを実感している生徒が多くいました。また、災害時に役立つような知識を学び、その知識を活かし災害食を



作りました。自らの生活に欠かせない食と向き合い見つめなおすこと、もしもに備えた食の知識が、今後生きてくると考えています。

- ・ 基本的な生活習慣の確立として、コロナやインフルエンザなどの感染症予防対策のために教室の換気を徹底することに取り組みました。
- ・ 登校時の体温チェック、給食中の黙食など、感染防止対策を考慮した生活様式がクラブ活動を含めてできるようになりました。

(3) 学校力の向上

- 校区の「めざす子ども像」の具現化に向け、連携型小中一貫教育を推進する
 - 校区の小中学校の連携により、学習指導の充実を図り、学校・家庭・地域のつながりを強化して教育力を高めるべく、連携型小中一貫教育の更なる推進
 - ・ 校区の「めざす子ども像」の具現化に向けて、「授業研究部」「特別活動部」「支援教育部」「生徒指導部」「養護教育部」「事務部」の6つの部会に分かれて取り組みました。
 - ・ 人権教育については、校区の全教職員でオンライン研修を行い、「ジェンダーLGBTQ理解」というテーマでご講演いただきました。
 - ◆ 次年度も、新たな教育課題に対して、組織を常に見直し必要に応じて改編するなど、効果的な取組ができるよう取り組んでまいります。
- 多様な教育課題に対して幅広い教育活動を展開するため、家庭・地域との連携を推進する
 - 授業を通じて地域と連携、地域活動へボランティアとして参加
 - ・ 「地域防災学習」「地域福祉学習」においては、地区コミュニティ協議会、福祉委員会の方々に出席授業を依頼し、教員と共同して芝谷中学校区の防災、福祉について学習しました。また、「花ボランティア」「クリーンキャンペーン」等では、彩りのある学校づくりのために、授業や放課後の活動として、地域の方々と教職員が協働して取組を進めました。
 - ・ 本校が掲げる「学力の木」には、生徒や教職員、地域、保護者の方々と共に学力の基礎となる3つの力（共感力・チャレンジ力・コミュニケーション能力）を育てていく様子を表現しております。今年度も教職員は、地域の中にある学校という意識を持ち、地域や保護者の方々と連携し、教育活動を展開しました。
 - ◆ 来年度も、学校・家庭・地域がつながり、共に子どもを見守り、育てられるような環境づくりを進めてまいります。



◇学校関係者評価について◇

学校評議員の皆様からは、コロナ禍による教育活動の様々な制限がある中、できる活動を行うことができている。今後、「アフターコロナ」を見据え、教育活動や生徒への指導についての見直しが行われていく中、課題をどのように捉え、生徒同士をどうつなげ関りを増やしていくかについて取り組む必要があるなどのご意見をいただきました。いただいたご意見を教職員で共有し、具現化していけるよう取り組んでまいります。

今後も「生きる力」を育成する教育活動を推進してまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。